いじめや不登校を予防する学級経営改善

－自己肯定感と学級の雰囲気の認知に着目して－

いじめはないかな？

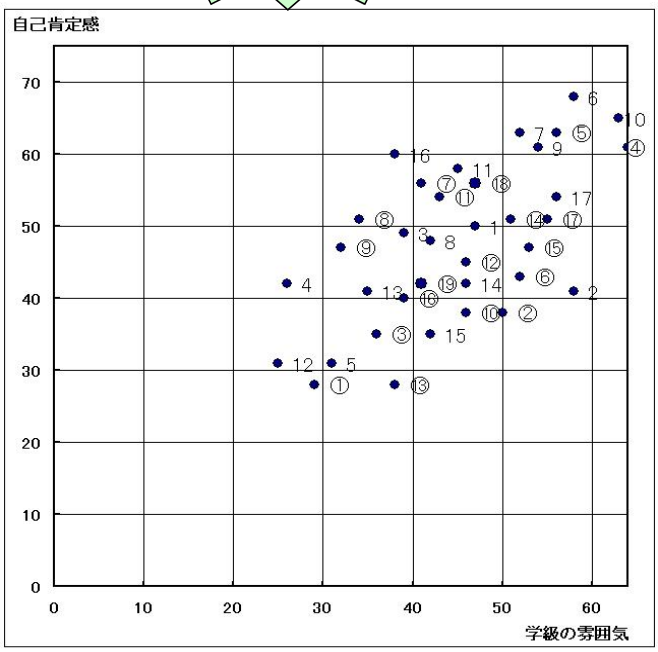
不登校が心配だな？

★学級の雰囲気はどうだろう？
★学級のまとまりはどうだろうか？
★学級の状態が分かればなあ？

★あの子が気になるな？
★一人でいることが多いな？
★援助・指導が必要な子は
どの子かなあ？

学級経営に必要なことは
学級集団及び個の実態を把握し
実態に基づいた援助・指導を
行うことです

いじめや不登校の予防のためには実態把握に基づいた学級経営改善が大切！



学級の子どもたち

自己肯定感 が高いか低いか

学級の雰囲気をどう捉えているか

がポイント！

実態を把握し援助・指導するには

集 団　**個**

の両方から！

質問紙を作成し学級の実態を把握して
援助・指導を考え、学級経営改善に取り組みました！

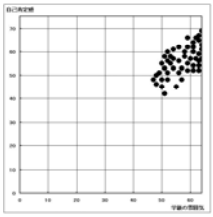
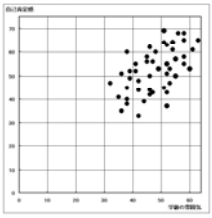
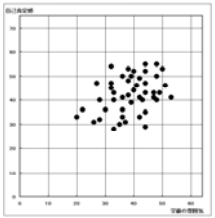
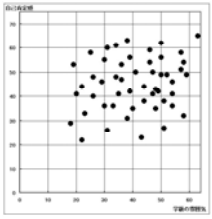
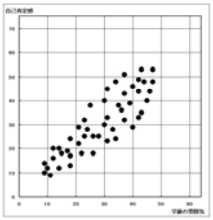
質問紙の作成

「自己肯定感」と「学級の雰囲気」の二つの観点から実態を把握する。

集団及び個の実態の把握

「自己肯定感」を縦軸に「学級の雰囲気」を横軸にとり
一人一人をプロットで表し、散布図で視覚的にとらえる。

プロットの分布で集団を把握　　**一つ一つのプロットで個を把握**

分布1		〈右上に集まった集団〉 ○自己肯定感が高い子どもが多い。 ○学級の雰囲気が良いと感じている子どもが多い。 ○学級としてかなりまとまっている。
分布2		〈右上に斜めに集まった集団〉 ○自己肯定感の高低に多少の差が生じてきている。 ○学級の雰囲気の認知に多少の差が生じてきている。 ○学級としてのまとまりはある。
分布3		〈座標の中ほどに集まった集団〉 ○自己肯定感の高低にあまり差がなく、座標の中ほどに集まっている。 ○学級の雰囲気の認知にあまり差がなく、座標の中ほどに集まっている。 ○学級としてのまとまりは不十分である。
分布4		〈プロットが大きく広がった集団〉 ○自己肯定感の高低に大きな差がある。 ○学級の雰囲気の認知に大きな差がある。 ○学級としてのまとまりに欠ける傾向がある。
分布5		〈左下に向かって長く伸びた集団〉 ○自己肯定感が高く学級の雰囲気が良いと感じる子どもから、自己肯定感が低く学級の雰囲気も悪いと感じている子どもへと伸びている。 ○学級としてのまとまりに大きな差が生じている。

プロットの分布による学級の傾向

実態をより的確に把握するために

日常観察

集団に対しての観点

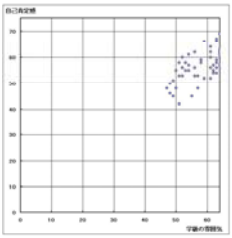
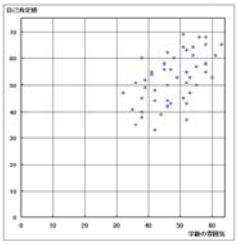
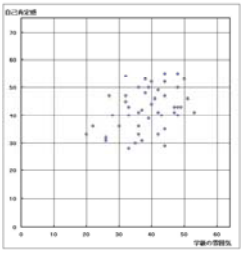
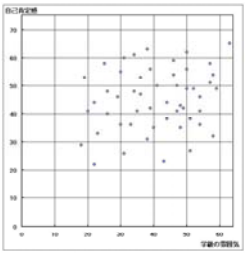
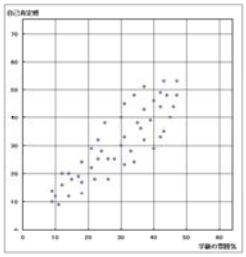
○できないことを責める雰囲気がある。
○数人の子どもだけでグループになり、こそこそと話していることが多い。
○グループの人間関係が固定して、グループ同士の交流がない。
○学習と遊びや授業と休み時間のけじめがない。
など・・・

個に対しての観点

○休み時間に一人でいることが多い。
○授業中、グループづくりでどのグループにも入れない。
○損な役をいつもやらされている。
○体調不良を訴えることが多い。
○遅刻や早退が多くなる。
など・・・

学級の実態に基づいた援助・指導

◎はいじめに関すること　※は不登校に関すること

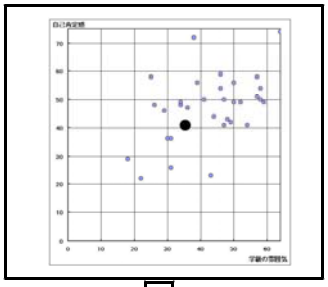
質問紙の結果	予想される学級の実態	実態に基づいた援助・指導		
		日常のかかわり	授業（学級活動）	個への援助・指導
(1)分布１ 	○認められる機会が十分あり、自分に自信を持ち自己表現したり、積極的に人とかかわったりできる。そのため、お互いを尊重し認め合える人間関係が形成されている。 ○子ども同士のトラブルはほとんどないと考えられる。	◎人間関係の深まり、学級の中で自分らしさを確認するための援助・指導を行う。 ◎状況を判断して「子どもたちでできそうだな」と思ったら任せる。全体的、長期的な視点でサポートする。	学級としてのまとまりがあるので、さらに深める。小集団から中集団、学級全体へという流れで実施する。 （例） ・サイコロトーキング ・たしざんトーキング ・トラストウォーク ・気になる自画像 ・別れの花束	◎一人一人の子どもに目を配り、少しの変化も見逃さないようにする。 ※一人一人の役割を明確にし、その責任をしっかり果たすようにする。 ※一人一人の努力は、みんなでしっかりと認め合う。
(2)分布２ 	○認められる機会はあるが、自信を持っている子どもと自信を持てない子どもが混在している。 ○人間関係がある程度良好で、トラブルは少ないと考えられる。	◎一度にたくさんのことを指示したり、指導したりしない。 ◎できることを一つずつ積み重ねる ※子どもの話を丁寧によく聴く。	一人一人のことをみんながもっとよく知り、肯定的に認め合えるものを実施する。 （例） ・質問じゃんけん ・究極の選択 ・ブレーンストーミング ・無人島ＳＯＳ ・別れの花束	◎下の方にプロットされた子どもには、声かけを多くする。 ※できるようになったことや一生懸命取り組んだプロセスを認める。
(3)分布３ 	○認められる機会が少なく、子ども同士がお互いに認め合える雰囲気ではない。 ○大きなトラブルはないが、些細なことでトラブルになると考えられる。	◎子どもの行動や取組の中のいいところ・努力したところを探し、行動を具体的に認める。 ※「君のことを気にかけているよ」というメッセージを込め、担任から継続的にコミュニケーションをとる。	学級の人間関係の緊張をほぐすものを実施する。担任との関係を深めるためのものを取り入れ、担任も一緒に活動する。 （例） ・アドジャン ・じゃんけんボーリング ・先生ビンゴ ・いいとこさがし ・四つの窓	◎一人一人の子どもの気持ちを理解するために、毎日５人くらいと交換日記をするのも効果的である。 ※学級や担任への緊張があるので、担任以外の教師がかかわることも可能。 ※全ての子どもに声をかける機会をつくり、それぞれの子どもが学級生活について感じていることを把握する。
(4)分布４ 	○認められる機会に差があり、自己表現できる子どもと自己表現できない子どもに分かれているため、お互いに認め合うことが困難である。 ○伸び伸びと生活している子どもと自分を抑えて生活している子どもに分かれている。 ○子どもたちが思い思いに行動し、小さなトラブルが頻発していると考えられる。	◎最低限のルールを設定し、簡単なルールから始めて、一つ一つが定着するまで取り組む。 ※不適切な行動・態度を取り上げ、「なぜ悪いか」「どこが悪いか」を理解させてから、改善点を一緒に見いだして取り組む。	みんなで協力してできる喜び、「成功体験」を取り入れる。 ルールをみんなで守っていけるような取組を実施する。 （例） ・バースディライン ・ビンゴゲーム ・何でもバスケット ・好きなものランキング ・共同絵画 ・私発見、あなた発見	◎休み時間一人で過ごす子どもの様子に目を配ったり、自分から話しかけてこない子どもには、担任から進んで声かけを行ったりする。 ※左下にプロットされている子どもには、特に親和的・受容的に個別面談を行い、丁寧に話を聴く。 ※決められたルールに従って行動していたことを積極的に認める。
(5)分布５ 	○自己主張が強い子どもが学級に強い影響を及ぼし、自己主張が苦手な子どもは自分を抑えて生活している。 ○話が聞けなかったり、約束が守れなかったりして、トラブルが多いと考えられる。 ○左下にプロットされている子どもは、いじめや不登校の可能性が高い。	◎気になる人間関係が見られたら、実際の様子や気持ちを探り、解決の方向を一緒に見いだして取り組む。 ◎なるべく時間を見つけて、子ども共に思い切り遊ぶ。 ◎問題が起きたときは、子どもの思いを受け止め、学級の問題として全員で話し合うようにする。	ルールを守って楽しく活動できる取組を実施する。簡単なルールでみんなが一緒に活動できることを取り入れる。 （例） ・ひたすらじゃんけん ・あいこじゃんけん ・じゃんけんボーリング ・ビンゴゲーム ・何でもバスケット ・心が温かくなる言葉	◎まじめに頑張っている子どもに、個別に声をかけて話をする中で、頑張りを認めていることを伝える。 ※左下にプロットされている子どもには、特に人間関係を観察・把握し、学級での気持ちが安定する友だちづくりをする。 ※担任と何でも話せる関係を築く。

実　践　例

10月～11月の2ヶ月間実践
（授業は3時間実施）

分布4の学級

（プロットが大きく広がった集団）



◎いじめに関する観点
※不登校に関する観点

質問紙の結果と
日常観察から
把握します

学級及び個の実態

◎自己主張の強い子どもが学級の中心となり、雰囲気を壊している。
※女子は比較的おとなしく、あまり自分の意見を言えない感じがある。
※夏休みに仲の良い友達とトラブルがあり、登校渋りが見られる子どもがいる。（●の子ども）

実態に基づいた
援助・指導

日常のかかわり

◎簡単なルールを決めて、継続して取り組んだ。
※給食の時間は日替わりで班を回り、子どもと話をすることで、担任との距離を感じさせないようにした。

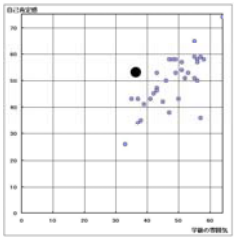
授業（学級活動）

○みんなで協力してできる喜び、「成功体験」を取り入れた。
○ルールをみんなで守っていけるような取組を実施した。
・バースディライン
・ビンゴゲーム
・共同絵画
・わたし発見、あなた発見

個への援助・指導

◎自己主張の強い子どもに対して、機会があるごとに話をした。
※登校渋りの子どもに対しては、本人が嫌がらない程度にスキンシップを心がけ、話を受容的・共感的に聴いた。

実施後の分布



学級の実態の変化

○学級の雰囲気の認知が高くなった子どもが増えた。
○学級としてまとまり始めた。

個の実態の変化

◎自己主張の強い子どもは、少し周りを気にするような態度を見せるようになり、友達に気を配ったかかわりが持てるようになった。
※●の子どもは、ＳＧＥを行ったことで、友達と楽しそうに行動する姿が見られ、自己肯定感が高まった。

研究の成果

★質問紙の実施により、客観的に学級及び個の実態を把握できた。
★プロットの分布により、学級の状態を5つの傾向に分類できた。
★質問紙の結果に日常観察を加え、実態に基づいた援助・指導を行ったことにより、子どもたちの自己肯定感が高まり、学級の雰囲気が良くなった。

問合せ先　　群馬県総合教育センター
担当：生徒指導相談係
０２７０－２６－９２１７